

札幌保健医療大学紀要の創刊にあたって

札幌保健医療大学

学長 稲 葉 佳 江

札幌保健医療大学は、平成25（2013）年4月に「人間力教育を根幹とした医療人の育成」を教育理念に、看護学部看護学科の単科大学として開学致しました。

人々の命と健康を守る医療は、人のために、社会のために役立ち、専門職としての道義心と責任の伴う公共性の高い活動です。本学の教育理念は、これをふまえ、看護は専門的知識・技術の提供に止まらず、人々の健康とこれに伴う悩みや苦痛、生活への支障と再生を援助し、最期までその人らしい生を全うできるよう支援する人間としての成熟性が不可欠であるとの考えに基づいています。本学のめざす「人間力」は、一人の人間として、また看護職者として、他者の心に寄り添い、その思いや苦悩・苦痛を汲み取る「豊かな感性」、常に真理と善を追求し、公共の使命と責任を全うする「高潔な精神」、人間的な判断と行動の知的拠り所となる「確かな知力」を養い、さらに多様な文化や社会、個性ある互いを認め合い共に生きる「他者との共存」の4つの要素からなり、これらの総合力を育成することです。

本学の存立意義は、大学としての教育と研究の機能を果たし、広く社会に貢献することにあります。本学の教員は、教育者として教育課程内外を通じて教育理念の具現化を図り、学生を育てる責任があるとともに、研究者として研究活動する過程において本学の教育理念を自ら体現する責任をも担っています。研究活動は、看護実践に係る自己の感性や高潔な精神、社会に生きる人々との共存を源動力にして、かつ科学的探究力をフル活用して初めてその成果に社会的意義を見いだす活動です。その副次的産物として自己の研究力の向上や実績に結びつくものと考えます。こうした本学の研究に対する姿勢のもとに、本学の研究成果を医療・看護と教育、地域や社会に還元していきたいと考えています。

近年、急速に進む少子高齢化、医療の高度化、人間性の尊厳と人権の尊重などの我が国の動向は、看護の質を保証する確かな専門的知識・技術の向上、倫理的状況への対処、チーム医療の推進と専門性の発揮、社会の多様なニーズに対応できる在宅看護などを求めています。これらの社会的要請をふまえ、看護学及び関連分野の向上・発展に貢献できるよう研究に精進し、大学としての機能と責任を果たしていく所存です。

現在、看護学及び関連分野の研究成果発表の場は多々あります。本学で発刊する「札幌保健医療大学紀要」もまた、研究成果を共有する場としての役割を果たすとともに、本学の教員及び本学関係者の研究力の向上、専門分野への貢献につながることを願っております。本学から発信する研究成果に対し、学内外からの積極的なご批判を頂きたいと思っております。